



時間について考える part2

わくわく通信61号で紹介した、時間についての第2弾です。今回は、「とても大切な時間であるからこそ、人の時間を奪う行為は最もいけません。」と書きました。しかし、先週の金曜日には、安倍晋三元首相が凶弾に倒れ、亡くられるというニュースに接し、しばし呆然としました。相手を傷付ける行為は、相手の傷が癒えるまで、相手の時間を奪うことに繋がり、もちろんしてはならぬことです。しかしそれ以上に、誰かの命を奪うことは、これから相手が未来に向かって生きていこうとする、時間の全てを奪う行為で、最もしてはならぬこととなります。

竹内まりあさんの「いのちの歌」の歌詞の一節に、「本当にだいじなものは隠れて見えない ささやかすぎる日々の中に かけがえのない喜びがある いつかは誰でもこの星にさよならをする時が来るけど、命は継がれてゆく 生まれてきたこと 育ててもらえたこと 出会ったこと 笑ったこと そのすべてに ありがとう この命にありがとう」とあります。一つの命を奪うということは、その人が味わうであろう、ささやかな日々の中の掛け替えのない喜びを奪うことは勿論、多くの方々がその人にたっぷり時間をかけた思いや愛情や人と人との繋がりを一瞬にして、滅してしまうのです。

今回の凶行は、社会の不安や恐怖を煽り、人々を暗い袋小路に追い込み、人々の時間を連鎖的に奪っていきます。それは、子供たちにも暗い影を落とします。子供たちに託された未来という時間を守るためにも、決して許される行為ではありません。

「帯西ブルーの心」で緑を育てる

陽射しが強まるごとに、勢いを増していくゴーヤの緑陰は、仲間を次から次へと増やし、日々成長しています。そのお世話をしている4年生にとっては、グリーンカーテンは、一服の清涼剤となっています。子供たちは、毎日空のご機嫌を伺いながら、ゴーヤを守り抜いています。その中でも一人黙々と額に汗を滲ませながら、緑色のジョーロを手に、毎日水やりをしている子供がいます。



私が、「どの心で水やりをしているの?」と尋ねると「『帯西ブルー』の心です。植物が成長するのを見ると楽しいし、水やりが植物の成長のためになっていると思うから…。」と当たり前のように話してくれました。

また、お日様広場には、黄色い帽子を被った1年生の子供たちが、その小さな手にペットボトルを握りしめ、水やりしている姿があります。この小さな命を慈しむ行為の中で、心が揺さぶられ感性が磨かれるのだと感じています。

